



新地町立福田小学校だより

# 観瀾 かんらん

No. 4

2022.5.10

文責 校長

## 今週末は運動会

大型連休が終わり、今週末は子どもたちが楽しみにしている運動会が予定されています。今週はどの学年も運動会の練習が連日行われます。連休疲れと重なり体調を崩してしまわないか心配なところですが、早めに就寝して疲れを翌日に残さないで登校できるよう、ご家庭での健康管理をいつも以上にご配慮いただきたいと思います。

今年度も感染症対策のために例年よりも規模を縮小しての開催となりますが、子どもたちの輝く笑顔、元気いっぱいに頑張る姿をご覧ください。また「親子種目」ではお子さんとの楽しい思い出ができることを願っています。ご協力よろしく申し上げます。



## 福田地区の宝の 継承に向けて

5月3日に開催された諏訪神社春季例大祭において、4年生が福田十二神楽を披露しました。当日は、本校の子どもたちや保護者の皆様、地域の皆様、関係機関や新聞記者など大勢の方々が集まりましたが、4年生は堂々と舞を披露し、上手に太鼓を演奏しました。わずかな練習時間だったようですが、驚くほどの上達ぶりです。子どもたちの姿に感動しました。

4年生の取組が、福田地区の“宝”の継承・発展に貢献できるように、学校では今後も神楽の学習を進めていきます。  
(裏面に新聞記事を掲載しました。)



## こんなお宝も発見

昨年度末に本校の外の物置の整理を行ったのですが、その際に右の写真の看板が物置の隅から見つかりました。文字が薄くて分かりづらいかと思いますが「観瀾校」と右から書かれています。これは社会科学資料集「わたしたちのまち新地」に掲載されている写真の実物であると思われます。誰がいつ揮毫したかは不明ですが、旧校舎に掲げられ、今の校舎になってから50数年間、物置にしまわれていたままだったのではないかと思います。

福島県の教育は真弓村出身の目黒重真先生の「これからの時代には教育が必要」との思いから始まり、新地小(観海堂)が県内初の学校として誕生し、その後この福田にも「観瀾校」がつけられました。重真先生の思いが込められたこの看板を、今後校舎のどこかに掲げたいと計画しています。





# 4年生 福田十二神楽

令和4年5月4日(水) 福島民友

令和4年5月4日(水) 福島民報

## 福田十二神楽復活の舞

### 新地 児童10人、継承し奉納



3年ぶりに復活した福田十二神楽を披露する地元の小学生  
= 3日午前、新地町福田・諏訪神社

新地町福田地区の諏訪神社で3日、後継者不足で一時途絶えた福田十二神楽の小学生が演じた。復活の

舞を一目見ようと、境内には大勢の参拝者が訪れた。福田十二神楽は、12曲の演目があり、全てを少年が演じるのが特徴。県重要無形民俗文化財に指定されていた。150年余り舞われたが、少子化の影響もあり、2019年の奉納が最後となった。

神楽の経験者でいける保存会が中心となり、存続に向け福田小や町と協議。男子の参加に限っていたしきたりを改めた上で、地域学習の一環として毎年3年生が神楽を学ぶ環境を整え、舞の復活につなげた。

この日演じたのは、昨年度の授業で神楽の基本的動作を習い、4月から神社に通って舞を習得した4年生10人。巫女と一緒にキツネの姿をした神が舞い踊る



「巫女の舞」と「明神の舞」のほか「毘沙門の舞」「恵比寿の舞」の計4曲を披露した。

神楽を舞った福田小4年の目黒慧君(9)は「緊張したけれど、練習よりもうまくできた」と笑顔を見せた。目黒英宏宮司(61)は「短い練習時間の中で、ここまでよく覚えてくれた。伝統の継承に向けて取り組みを継続していきたい」と話した。



練習した舞を神楽殿で披露する福田小4年生

## 福田小4年生 十二神楽奉納

### 新地の諏訪神社例大祭

新地町福田地区の福田諏訪神社の春の例大祭は3日、同神社で開かれた。約百六十年間伝わる県重要無形民俗文化財福田十二神楽を神社の神楽殿で初披露した。

神事の後、神楽殿で児童が十二神楽のうち「巫女(みこ)の舞」「毘沙門の舞」など四種類を披露した。氏子や児童の保護者、住民らは、真剣な表情で舞う子どもたちの姿に大きな拍手を送った。

福田十二神楽は十二種の神楽で成り立つ。

江戸時代後期から受け継がれ、春(五月)と秋(十一月)の例大祭で奉納されてきたが、少子化などの影響で継承に向けた活動が三年前から途絶していた。地元の歴代神楽師は新

江戸時代後期から受け継がれ、春(五月)と秋(十一月)の例大祭で奉納されてきたが、少子化などの影響で継承に向けた活動が三年前から途絶していた。地元の歴代神楽師は新

たな「福田十二神楽保存会」を立ち上げて学校などに協力を要請。学校側は「地域学習」として授業に組み入れ、現四年生が昨年度から神楽舞の習得に取り組んでいる。

保存会長の窪田松雄さんは「百六十年間の伝統を若い世代が受け継いでくれるのはうれしい。練習を重ねて上達していく姿を温かく見守ってほしい」と住民らに呼びかけた。